

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0174700914		
法人名	特定非営利活動法人くべつエヌピーオー優愛館		
事業所名	グループホームゆうの里		
所在地	〒089-4311 足寄郡陸別町字陸別東1条4丁目1番地 (電 話) 0156-27-2500		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年3月5日	評価確定日	平成22年3月24日

【情報提供票より】(平成22年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤 5人、非常勤 11人、常勤換算	6.85人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000~66,000 円	その他の経費(月額)	15,000~17,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 850 円		

(4) 利用者の概要(3月1日)

利用人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	84.77 歳	77 歳	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	陸別町国民健康保険診療所・陸別歯科診療所
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は陸別町の中心街に位置し、付近に陸別町役場や診療所などがあり利便性が高い環境である。事業所敷地内にデイサービスセンターや高齢者共同住宅が隣接し、通所する町民が気軽に事業所に立ち寄っている。運営者は開設時から全職員に「利用者の尊厳を守り、楽しく安心して暮らせるように支援する」という理念と基本方針を教育し、職員は理念を念頭に利用者と信頼関係を築いる。利用者の表情は明るく利用者同士の会話も多く、日々楽しく暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での課題である運営推進会議は次年度に開催する予定である。利用者の食事の取り組みについては、食材の買い出しは職員と散歩のついでにでかけ、食事の準備や後片付けは、無理強いすることなく職員と一緒にに行っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員の意見を聞きながら運営者、管理者、介護支援専門員が話し合い、運営者が取りまとめ作成している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は現在開催していないが、平成22年度の開催を計画中有。
重点項目②	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月送付する文書で利用者の生活状況を報告し、金銭出納帳のコピーを同封している。事業所だよりは2ヶ月に1回発行している。さらに、家族の来訪時に利用者の生活状況を報告したり、苦情や相談を受けるなど話しやすい雰囲気づくりに努めている。重要事項説明書で陸別町保健福祉センター、陸別町社会福祉協議会、国民健康保険団体連合会に苦情相談等窓口があることを明示している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 隣接のデイサービスセンターに通所する町民を中心に地域との交流を深めている。また、地域の小中学生のよさこい踊り、ブラスバンド演奏のボランティア活動を受け入れている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりの尊厳を守り、楽しく安心して暮らし続けられるよう支援します」という独自の理念をつくりあげ、見やすいところに掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と全職員は常に理念を念頭におき、理念の実践に取り組んでいる。また、理念を毎朝利用者と一緒に声を出して読み上げている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接のデイサービスセンターに通所する町民を中心に地域との交流を深めている。また、地域の小中学生のよさこい踊り、ブラスバンド演奏などのボランティア活動を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員の意見を聞きながら、運営者、管理者、介護支援専門員が話し合い、運営者が取りまとめて作成している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会未加入のため、開催には至っていない。	○	運営推進会議は現在開催していないが平成22年度に開催を計画中であるので、会議の開催を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	理事長が陸別町会議員なこともあり、行政と頻繁に交流を行っている。また、役場や銀行に事業所の会報である優愛館だよりを配布している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月送付する文書で利用者の生活状況を報告し、金銭出納帳のコピーを同封している。事業所便りは2ヶ月に1回発行している。さらに、家族の来訪時に利用者の生活ぶりなどを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に意見や要望、苦情、利用者の日ごろの健康状況などを話し合い、常に話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、重要事項説明書で陸別町保健福祉センター、陸別町社会福祉協議会、国民健康保険団体連合会に苦情相談窓口があることを明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動があった場合は、大勢の職員で対応して利用者にダメージを与えないように配慮している。新人職員には、2日間研修を行い、利用者とゆっくり馴染みの関係をつくるように努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は職員を外部研修に積極的に参加させ、内部研修も月に1回行い、利用者の対応、職員同士の問題提起を話し合うなど職員の質の向上に努めている。職員もモチベーションを高めて、資格取得について積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝保健福祉事務所、十勝高齢者グループホーム協議会、北海道グループホーム協議会主催の研修に参加している。足寄町特別養護老人施設に全職員が段階的に研修に参加して、利用者20人ほどのグループに分け3人の職員が極力グループホームに近い形で対応するという個別ケアに取り組む姿勢や技術を学び、ケアの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の思いを踏まえながら、本人や家族に説明し、見学を行い、馴染みながらの利用開始に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人ができることを引き出して手伝いを依頼している。また、筋力低下を防ぐため、廊下歩きや軽い体操、早口ことば、食品の買い出しなどを行い、共に支えあい楽しく過ごしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を踏まえ、日々の関わりや表情、動きなどから利用者が何をしたいのか理解して本人本意に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員を付けて介護プランシートを作成している。ケア会議で担当職員の意見を聞き、計画作成担当者が取りまとめて作成している。介護計画は利用者や家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行い、変化があった場合は、その都度利用者や家族の希望も取り入れて見直し、変更がある場合は、必ず家族に説明し同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は基本的には家族で行うが、家族から要請があれば事業所で送迎するなど柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医が遠方の場合、事業所の協力医がかかりつけ医になるように勧め、緊急時に対応できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化については早めの受診を心がけ、グループホームでできること、できないことを家族にも説明し医療関係者と話し合っている。終末期については担当医の判断で陸別町の特養ホームに入所するシステムがあり全職員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけなど常に理念を念頭に支援し、写真の使用については家族の同意を得るなど配慮している。個人情報の守秘義務は全職員が理解しており、廃棄する際はシュレッダーで処理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決めることなく本人の体調や得意分野など考慮し、強制することなく希望に沿って本人のペースに合わせて支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の希望を取り入れながら買い出しに行ったり、運営者が打ったそばが食卓に上ることもある。また、食事の準備や後片付けなど負担にならないよう楽しみながら職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	常時入浴できるように準備しており、入浴する回数は週2～3回で設定している。受診前日は柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者全員に声をかけ、本人の体調に合わせて参加自由で風船バレー、早口ことば、体操を行うなど、楽しく気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所近辺を散歩したり、毎日の食品の買い出しに希望する利用者と一緒に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が、鍵をかけることの弊害を理解している。防犯上、夜7時以降は施錠している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難誘導、通報、消火などの消防訓練を行うと共に、夜勤者2名を確保するなど有事に備えている。スプリンクラー、自動火災報知設備も設置している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は1日1,000cc以上を目安に支援しており、記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは明るく廊下も広い。トイレの照明は自動で点き利用者の混乱を防いでおり、空気清浄機を3箇所設置し、湿度管理に配慮している。キッチンからは食事の準備の気配を感じて食欲を増進している。また、居間には季節に合わせて職員と一緒に作ったものや写真を飾っている。日中は気の合う利用者同士がソファでくつろいでおり、楽しく過ごせるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面所、クローゼットを備えている。利用者の馴染みの家具、仏壇を持ち込み、家族の写真を飾り、プライバシーも守られ穏やかに暮らせる配慮をしている。		

※  は、重点項目。